

優秀演題賞ノミネート講演

座長：関口 由紀（女性医療クリニック LUNA ネクストステー

① 非常勤出張医による泌尿器科外来での漢方薬処方の実際

札幌医科大学泌尿器科¹⁾ 八雲総合病院泌尿器科²⁾

田中 俊明¹⁾²⁾、鰐渕 敦¹⁾²⁾、前鼻 健志¹⁾²⁾
京田 有樹¹⁾²⁾、橋本 浩平¹⁾²⁾
小林 皇¹⁾²⁾、舛森 直哉¹⁾

札幌医科大学の大きな役割の一つは、北海道内の地域医療の支援である。札幌医科大学泌尿器科では、北海道内の地域病院へ常勤医を派遣しているほか、非常勤での出張外来を多数おこなっており、道南地区にある八雲町の八雲総合病院にも毎週出張医を派遣し、週2日の外来診療をおこなっている。診療対象となる同町および周辺地域の人口は約40,000人であり、毎週多数の患者が受診している。今回、八雲総合病院での泌尿器科外来における、漢方薬の処方の実績について調査し、外来診療におけるその有用性を検討した。

対象は2018年10月から2021年10月までに八雲総合病院泌尿器科を受診した症例で、受診記録により漢方薬の処方履歴のある患者を検索し、抽出した。治療効果は診療録により評価した。

当該期間に延べ12,204名の患者が受診し、漢方薬は延べ436回(3.6%)処方されていた。患者実数としては122名で処方され、男性50名(41.0%)、女性72名(59.0%)、年齢は中央値77歳(16~96)であった。13名には2剤、1名では3剤の処方がされていた。

薬剤別の処方症例数は、猪苓湯46、牛車腎氣丸19、清心蓮子飲14、桂枝茯苓丸14、竜胆瀉肝湯 12、猪苓湯合四物湯9、八味地黄丸9、補中益氣湯 4、当帰芍薬散3、五淋散2、小建中湯2、疎経活血湯1、当帰四逆加吳茱萸生姜湯1、抑肝散1であった。全137处方中、「効果あり継続中」は38处方(27.7%)、「症状改善により終了」が70处方(51.1%)、「効果無く中止」が29处方(21.2%)であった。薬剤別の継続率は、猪苓湯21.3%、牛車腎氣丸26.3%、清心蓮子飲42.9%、桂枝茯苓丸28.6%、竜胆瀉肝湯25.0%、猪苓湯合四物湯11.1%、八味地黄丸33.3%、補中益氣湯0%、当帰芍薬散33.3%、五淋散50.0%、小建中湯50.0%、疎経活血湯100%、当帰四逆加吳茱萸生姜湯100%、抑肝散100%であった。

地域病院での非常勤出張医による泌尿器科外来において、多数の患者に漢方薬が処方されていた。蓄尿症状、排尿症状、尿路不定愁訴などを示す患者に対して、比較的高い効果や満足度が得られており、有用性が高いと考えられた。